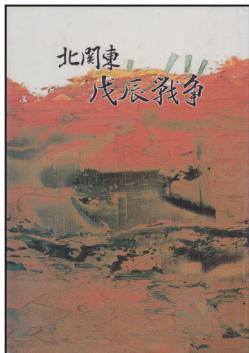


21

栃木県を中心とした北関東エリアの  
戊辰戦争史



『北関東戊辰戦争』

田辺昇吉／著

田辺昇吉

1982(昭和 57 年)

408p 20cm

※絶版もしくは重版未定

戊辰戦争のうち、足利から小山・宇都宮・大田原と栃木県内を北上し、福島県会津地域に至るまでの戦闘を中心に記述されている。日光方面の戦闘については、著者の前著『戊辰秘話日光山麓の戦』(板橋文化財保護協会 1977) を補訂した「抄録日光山麓の戦」を巻末に収録している。

陸軍の大隊長を務めた経歴を持つ著者により、各地での戦闘の状況が、部隊の動きを地図で示すなど、詳細に記述されている。

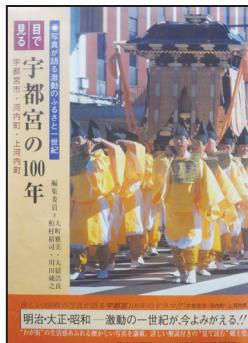
また、戦争に巻き込まれた北関東の諸藩や住民たちの出来事も書かれており、様々な立場から戊辰戦争を知ることができる。

貸 出

【請求記号 : T209. 6/41】

23

明治から昭和、平成までの宇都宮市を  
振り返る写真集



『目で見る宇都宮の100年』

大町雅美／〔ほか〕編集

郷土出版社

2000(平成 12 年)

146p 37cm

※絶版もしくは重版未定

「明治」、「大正」、「昭和戦前」、「昭和戦後」の4部構成で、宇都宮市の街の様子・人々の生活・教育の動きについて、解説を付した300点以上の写真で紹介している。

栃木市から県庁が移転し発展する街並み、第2次世界大戦中の空襲被害からの復興の過程を、当時の写真から知ることができる。

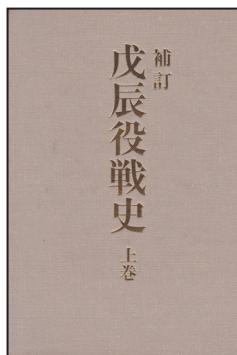
郷土出版社が発行する「目で見る100年」シリーズは、本書のほか、「矢板・さくら・那須烏山」、「日光・今市・鹿沼」、「那須」、「栃木・小山・下都賀」、「足利・佐野・田沼・葛生」、「真岡」を当館で所蔵している。

貸 出

【請求記号 : T210/17】

22

戦災による資料焼失に遭いながらも  
生き出された戊辰戦争の基本資料



『戊辰戦史 補訂版』

(上巻・下巻)

大山柏／著

時事通信社

1988(昭和 63 年)

22cm

※絶版もしくは重版未定

著者の大山柏氏は考古学者であり、その功績が認められ栃木県文化功労者として表彰された。その父は日清戦争の第2軍司令官・元帥・参謀総長、日露戦争の満洲軍総司令官の大山巖氏。著者は、大山巖氏の伝記執筆のために文献収集・整理をする過程で、戊辰戦争資料の収集・研究を手がけ、本書の執筆を依頼された。

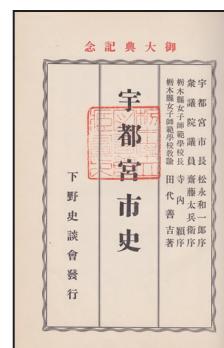
戦災により資料や原稿は焼失したが、終戦後十余年をかけて資料収集に奮闘し、再び執筆・完成させたのが、この補訂版。上下巻の資料で、全国各地で起きた戊辰戦争に係る戦闘の状況が分かる。栃木県内の戦いについても「第四編 関東における戦闘」、「第七編 会津若松攻城戦」などで多数確認できる。

貸 出

【請求記号 : T209. 6/58】

24

昭和天皇の即位を記念して出版した  
宇都宮の市史



『宇都宮市史』

田代善吉／著

下野史談会

1928(昭和 3 年)

4, 353p 23cm

※絶版もしくは重版未定

全6章からなり、「宇都宮創業時代」、「鎌倉幕府時代」、「足利幕府より宇都宮氏滅亡まで」、「徳川初期より幕末に至る」、「維新前後より現今に至る」の5章が通史にあたる。「著名碑文」の章では市内各地にある「菊地愛山、山本蕉逸、山澤士弘、永井安通、高久靄崖、君城墓表、蒲生之碑、戸田忠恕、戊辰戦争役碑、大橋淡雅墓表、水戸戦役碑、圓山信庸碑」のそれぞれの碑文の所在、内容を知ることができる。

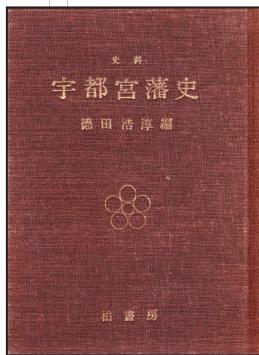
著者の田代善吉氏は、「下野史談会」を主宰し、機関誌『下野史談』(☆11)を発行。『宇都宮誌 全』(下野史談会 1926)、『栃木縣史』(全17巻) (☆12)、『栃木縣郷土誌』(歴史図書社 1981)などの著書がある。

貸 出

【請求記号 : T211/5】

25

## 宇都宮藩の藩主を務めた戸田氏の記録を集約した史料集



### 『史料宇都宮藩史』

徳田浩淳／編

柏書房

1971(昭和 46 年)

8, 485p 22cm

※絶版

大正時代、旧宇都宮藩士の一族の者が戸田家から依頼され編さんした「御家記」全 5 卷に、徳田浩淳氏が改訂補足を行った資料。宇都宮藩戸田氏の起りから明治の廃藩まで、藩主の事蹟と藩政の概要がまとめられている。

「御家記」の編さんには、宇都宮藩江戸藩邸にあった史料が用いられている。宇都宮藩の公用文書のほとんどは戊辰戦争によって失われたため、「御家記」は宇都宮藩を知るための貴重な史料といえる。

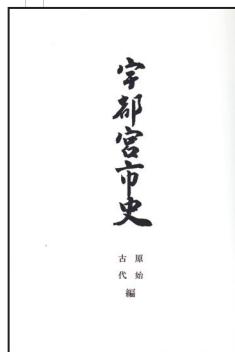
付図に「宇都宮二の丸御殿全図」、「御在城之図（幕末）」、「御居間にて御達有之節の図」、「英岩寺御靈屋拝礼式図」が収録。口絵には宇都宮城に関する絵図 4 枚、戸田氏家中の提灯の模様を示した図などを掲載している。

### レファレンス

【請求記号 : T211/30】

27

## 市制施行 80 周年事業の一環として編さんされた全 9 卷の市史



### 『宇都宮市史』

(全 9 卷)

宇都宮市史編さん委員会／編

宇都宮市

1979～1982(昭和 54 年～昭和 57 年)

22cm

※絶版もしくは重版未定

歴史の専門家ではない市民に広く読まれることを念頭に編さんされた市史。

1 卷は原始・古代編。旧石器時代から平安時代までを取り扱っている。通史としての体裁を取りつつ、資料編としても利用できるよう写真や図を多く挿入している。

2 卷は、中世史料編、3 卷はその通史編。本書では中世の区分を、宇都宮氏の始祖宇都宮宗円から宇都宮國綱の隕所追放までとしている。

4・5 卷は近世史料編 1・2、6 卷はその通史編。7・8 卷の近・現代編 1・2 は、戊辰戦争後から宇都宮市制 80 周年までを取り扱っている。

別巻は年表や原始・古代、中世及び近・現代の補遺、旧町村の合併までの略史を収録している。

### 貸 出

【請求記号 : T211/75】

26

## 明治・大正・昭和、それぞれの時代の宇都宮の写真集



### 『ふるさとの想い出写真集

明治・大正・昭和 宇都宮』

徳田浩淳／編

国書刊行会

1979(昭和 54 年)

164p 31cm

※絶版もしくは重版未定

宇都宮の明治・大正・昭和時代の街並みや官公署、学校などの白黒写真を収録した資料。それぞれに詳細な解説があり、当時の生活や文化、社会情勢の調査に役立つ。「地図・鳥瞰図」の章には、1868 年(明治元年)から 1957 年(昭和 32 年)までの絵図・地図が掲載されている。「宇都宮市全図」は、1878・1902・1910 年(明治 10・34・42 年)、1925・1926 年(大正 14・15 年)、1931・1948・1955 年(昭和 6・23・30 年)があり、宇都宮市の合併、交通の発達、道路の変遷の調査の参考になる。

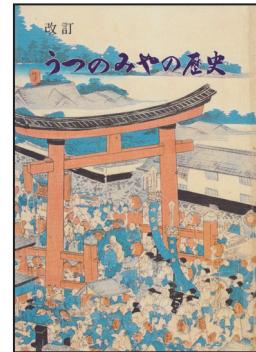
巻末の小論「宇都宮町数と町名の変遷」(徳田浩淳/著)には、文政年間から昭和 30 年代までの宇都宮市内の町数及び町名の変遷がまとめられている。

### 貸 出

【請求記号 : T211/74】

28

## 読みやすく、わかりやすく書かれた『宇都宮市史』(☆27) の概説書



### 『うつのみやの歴史』

宇都宮市／編

宇都宮市

1992(平成 4 年)

418p 22cm

※絶版もしくは重版未定

『宇都宮市史』(☆27) の刊行を受けて、これができるだけ読みやすく、分かりやすい概説書として編さんしたのが、本資料である。

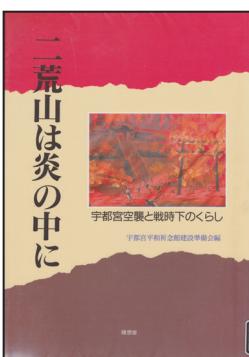
写真・図・表などの資料が豊富で、固有名詞や難しい漢字にルビが振られているので、幅広い年齢層の方々が手に取りやすい構成になっている。地名はそれぞれの時代に使用されていた名称で示され、( ) 内に本資料刊行時の地名が示されている。巻末に「略年表」、参考文献の記述があり、付録に「宇都宮の歴史散歩－宇都宮市内文化財めぐり」と「江戸時代宇都宮城下復元図」1 枚がある。

### 貸 出

【請求記号 : T211/120】

29

## 太平洋戦争中の宇都宮の様子を伝える 記録資料



『二荒山は炎の中に  
宇都宮空襲と  
戦時下のくらし 1930-1951』  
宇都宮平和祈念館建設準備会／編  
随想舎  
1992(平成4年)  
163p 26cm  
※絶版もしくは重版未定

「第1部 宇都宮大空襲」、「第2部 戦時下のくらし」、「第3部 平和への足どり」、「第4部 資料編」の4部構成。1945年(昭和20年)7月の宇都宮空襲の記録や体験談を中心に、戦時中から戦後の復興期にかけた市民の暮らしについて知ることができる貴重な資料。

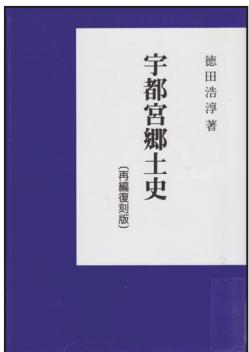
図表が多いことが特徴で、被災後の市内を撮影した写真や統計各種のほか、被災範囲が地図に反映された「宇都宮空襲罹災地図」や、市内に置かれていた軍事関係の施設の配置を示した「第14師団配置図」など、当時の様子を視覚的に知ることができる。巻末の栃木県内戦争関係図書の一覧や、1872年(明治5年)から1951年(昭和26年)までをカバーする近現代宇都宮戦争年表も、各種調査に活用される。

貸 出

【請求記号 : T211/121】

31

## 地元の郷土史家が書き上げ、 2度復刻された宇都宮の歴史資料



『宇都宮郷土史』  
徳田浩淳／著  
ヨークベニマル  
1996(平成8年)  
273p 20cm  
※絶版もしくは重版未定

本書は1996年(平成8年)刊の再編復刻版であり、初版は1959年(昭和34年)刊、復刻再版は1979年(昭和54年)刊である。(初版・復刻再版はいずれも館内利用のみ)。

宇都宮の地名の由来、歴代城主、系図、神社と寺院の沿革、古人小伝、史話・伝説・旧跡など、あらゆる情報を掲載している。時代範囲は古代～明治である。

著者の徳田浩淳氏は、下野歴史学会会長、宇都宮史料保存会長、宇都宮市史編さん委員などを務めた郷土史家である。

本書以外にも『宇都宮の歴史』(下野史料保存会 1970)、『史料宇都宮藩史』(☆25)、『下野国誌』(☆44)、『ふるさとの想い出写真集 明治・大正・昭和 宇都宮』(☆26)など、「栃木県の歴史を調べるために情報源」として取り扱われる資料の刊行に多く携わっている。

貸 出

【請求記号 : T211/126】

30

## 宇都宮市の100年間を写真・絵画・ 地図・文字で表現した記念の一冊



『写真でつづる宇都宮百年』  
記念出版編集委員会／編  
宇都宮市制100周年記念事業  
実行委員会  
1996(平成8年)  
135p 31cm  
※絶版もしくは重版未定

1896年(明治29年)4月の市制施行から100年を記念して刊行された資料。市・企業・個人から提供を受けた写真・絵画・地図など約300点を、解説付きで時代順にまとめている。巻末に明治以降の宇都宮の歴史年表を収録。

明治～戦前期については、歴代の県庁舎や駅舎、病院などの建築物、街や通りの風景など、当時の生活の様子を知るための貴重な写真が満載。戦時期から終戦直後の写真では、人々の厳しい暮らしを伺い知ることができる。戦後の復興から発展期の各種写真からは、現代に直結する時代を感じられる。

類書に、個人のコレクションを編集した写真集『昔日の宇都宮 石井敏夫コレクションより』(☆32)がある。

貸 出

【請求記号 : T211/124】

32

## 視覚で時代の変遷が理解できる 宇都宮の近現代写真集



『昔日の宇都宮』  
石井敏夫コレクションより』  
塙静夫／解説、石川健／解説,  
随想舎／編  
随想舎  
1997(平成9年)  
135p 26cm  
※絶版もしくは重版未定

宇都宮市の郷土資料収集家・石井敏夫氏の写真コレクションによる、明治以降の宇都宮の写真集。近世から戦後の宇都宮の歴史を10のテーマで辿る第一部と、主要な22の施設に関連する写真を紹介する第二部の2部構成。豊富な写真のほか、地図・絵画・文書などを併せて紹介。テーマごとにコンパクトにまとめられた解説は、近現代宇都宮の歴史の概略を掴む際に役立つ。

石井敏夫氏の豊富なコレクションをもとに、本書以外にも『下野湯治場紀行』(随想舎 2003)、『絵葉書にみる郷愁の日光』(随想舎 1995)などが刊行されている。

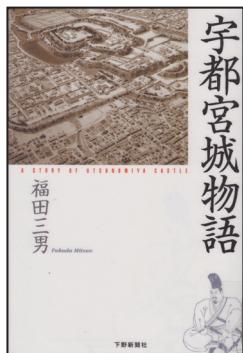
類書に、市民から広く寄せられた写真を編集した『写真でつづる宇都宮百年』(☆30)がある。

貸 出

【請求記号 : T211/133】

### 33

## 中世から現代に至る宇都宮城と城に 関わる人々の物語



### 『宇都宮城物語』

福田三男／著

下野新聞社

2007(平成 19 年)

217p 19cm

2004 年～2005 年（平成 16～17 年）に下野新聞に連載された「亀が丘城物語」を単行本化した資料。

宇都宮城を創設・支配した城主・宇都宮氏の盛衰や、「小倉百人一首」と宇都宮の関わりなどが記される「中世」、釣り天井事件や將軍の日光社参、蒲生君平などの著名人まで広く言及する「近世」、水戸天狗党事件や戊辰戦争での宇都宮城落城及び県内各地での戦闘などを描く「幕末」の 3 部からなる。各項目が見開き 1 ページに収まるよう、簡潔にまとめられているのが特徴。

巻頭には、現代の地図に堀・石垣・武家地などを色分け表示した「宇都宮城想定図」などの絵図を、巻末には年表や系図を収録している。

**貸 出**

【請求記号 : T211/155】

### 35

## 徳川幕府の聖地日光を舞台に、幕末・ 明治維新の動乱期が詳細に描かれる



### 『明治維新と日光 戊辰戦争そして 日光県の誕生』

柴田宜久／著

随想舎

2005(平成 17 年)

295p 21cm

※絶版もしくは重版未定

幕末・明治の動乱の中、日光の地は戊辰戦争や神仏分離政策など、相次いで危機的な状況に見舞われた。本書はこの時代の日光の状況を概説したもので、読み物としても、研究書としても手ごたえのある一冊。

『社家御番所日記 日光叢書』(別格官幣社東照宮社務所／編、発行 1931～1982) をはじめとする膨大な文献史料（巻末に「史料・参考文献」一覧あり）をもとに、時代に翻弄された日光の辛苦と変貌を明らかにしている。また、文中には詳細な参考文献が紹介されている。

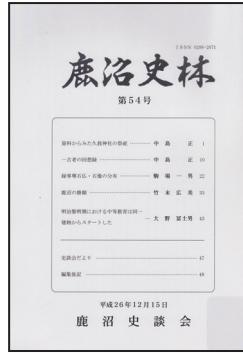
巻末に「『明治維新と日光』関係年表」があり、「全国の動き、日光地方の動き、下野地方の動き」を併せて確認できる。

**貸 出**

【請求記号 : T222/187】

### 34

## 鹿沼市を中心とした郷土史の研究誌



### 『鹿沼史林』

鹿沼史談会／編

鹿沼史談会

1954～(昭和 29 年～)

鹿沼史談会で年に一度発行する機関誌。鹿沼を中心に、関連ある県内外の歴史・考古・民俗・芸術・地誌・文化財などに関する論文などを掲載している。2015 年（平成 27 年）12 月の最新号で第 55 号を迎えた。

鹿沼史談会は 1952 年（昭和 27 年）設立。県内の郷土史研究会の中でも歴史ある団体の一つである。毎号、会員それぞれの視点で、“知られざる鹿沼の歴史”とも言える様々な事象に光を当て、優れた研究成果を発表している。郷土の研究者が自ら郷土の歴史を採録・研究し、後世に伝える資料として大変貴重な刊行物である。『鹿沼市史』とともに、鹿沼の郷土史研究には欠かせない一冊である。

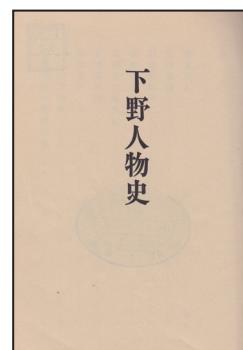
※未所蔵または館内利用の巻号あり

**レファレンス**

【請求記号 : T221/11】

### 36

## 古代～近世時代に活躍した下野ゆかり 人物の伝記 50 項



### 『下野人物史』

下野新聞社／編

下野新聞社

1972(昭和 47 年)

6, 334p 19cm

※絶版もしくは重版未定

1971（昭和 46 年）に下野新聞に連載された「下野人物史」を単行本化した資料。一部書き下ろしあり。

男体山開山の祖・勝道上人をはじめとする僧侶たち、宇都宮頼綱や那須与一、足利尊氏などの武将たち、二宮尊徳や鈴木石橋ら学者・思想家など、近世までの下野ゆかりの人物を取り上げ、紹介している。50 に及ぶ各項目はそれぞれ 6 ページ前後で、各人物の生涯が時代背景を含めてコンパクトにまとめられている。

各項目の終わりにある「メモ」には、生前使用した武器、墓所の在所、著作物、系図など、当該の人物に関する補足情報が挙げられており、多角的な観点から理解を深めることができる。

**貸 出**

【請求記号 : T280/24】

## 37 大正の御大典記念として発行された 栃木県ゆかりの人物の紳士録



### 『野州紳士録』

金澤源太郎／編

野州新聞社

1915(大正4年)

8, 495, 12p 23cm

※絶版もしくは重版未定

地域別に氏名のイロハ順に編集されている。住所・生年月日・写真とともに各人の経歴が具体的に記されている。また、名前と写真のみ紹介されている人物や会社がある。

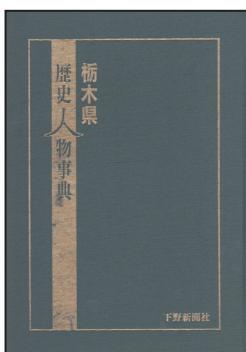
本書と併せて参考にしたい資料として、次のものがある。

- ・『栃木縣人物編』(倉澤廣吉／著 宇都宮以文館 1895) 明治の紳士録。
- ・『栃木縣名士肖像録』(遠藤永吉／編 有終社 1903) 肖像写真付の明治の紳士録。
- ・『野州名鑑 昭和6年版』(遠藤健三郎／編 下野新聞社 1931) 約5000人収録した昭和初期の紳士録。

### レファレンス

※館内利用のみ 【請求記号 : T280.3/3】

## 39 栃木県ゆかりの著しい業績のあった 人物の事典



### 『栃木県歴史人物事典』

栃木県歴史人物事典編纂委員会／編

下野新聞社

1995(平成7年)

726p 27cm

政治・経済・産業・文化・芸術・スポーツなど、あらゆる分野で業績のあった栃木県ゆかりの人物、話題になった人物、記録にとどめるべき人物2000人の物故者を収録。また、歴史上重要な伝承や物語に登場する人物も一部納めている。人物名の後に、生没年、出身地もしくは活躍地、主な業績、肩書などが青字で記載されており、人物理解の一助となる。参考文献と執筆者が各項目にあり、さらに詳しく調査するための参考になる。

資料編には、「栃木県選出の国家議員、歴代栃木県知事、歴代県議会議長、歴代各市町村長」を収録。索引は、五十音順と関連市町村別がある。

### レファレンス

【請求記号 : T280.3/46】

## 38 文化功労者表彰受章者が選んだ栃木県 に根ざした人物たち



### 『郷土歴史人物事典栃木』

尾島利雄／編著、柏村祐司／編著

第一法規出版

(現: 第一法規株式会社)

1977(昭和52年)

194p 19cm

※絶版もしくは重版未定

第一法規出版が手掛けた、古代から現代までの、県出身あるいは県に影響を与えた人物を対象にした人物事典のシリーズの本県版。著者は、本県における民俗学研究の功績が認められて栃木県文化功労者表彰を受章した尾島利雄氏と、その教え子である柏村祐司氏。

内容は大きく分けて3部構成になっており、第1・2部で古代から近現代の人物紹介、そして第3部では現代の人物を紹介している。本書が他の人物事典と異なるのは、著者の研究分野である民俗学研究の観点から執筆されていることにある。巻末には栃木県の風土・人間性に関する考察があり、栃木の歴史をあらゆる視点から眺めることができる作品となっている。

### レファレンス

【請求記号 : T280.3/18】

## 40 林子平、高山彦九郎とともに、『寛政の 三奇人』と称される蒲生君平の評伝



### 『蒲生君平』

熱血の古代探求者

雨宮義人／著

下野新聞社

1983(昭和58年)

288p 19cm

※絶版もしくは重版未定

祖母から祖先が蒲生氏郷であると聞いた蒲生君平は、学問を志したのち、師に就いて学び、水戸や江戸を訪れる。東北地方や近畿・四国地方を旅し、宇都宮から江戸へ移り住んだ。その後、「前方後円墳」という用語を初めて用いた『山陵志』や『不恤緯』、『職官志』などを執筆し、46歳で亡くなっている。

本書では、蒲生君平の功績とともに、訪れた先々で出会う人々と君平との交流が描かれている。

著者の雨宮義人氏は、1979年(昭和54年)に栃木県文化功労者表彰を受章しており、『田中正造の人と生涯』(茗渓堂 1954)、『二荒山神社考』(三恵出版貿易 1973)、『栃木県神社誌』(☆5)などの著作がある。

### 貸 出

【請求記号 : T280.8/6/4】